

2020年6月1日

ゼロプラパッケージ開発コンセプト

山喜株式会社

山喜は1953年の創業以来、数多くのワイシャツを世に送り出してきました。

高級品が求められた時代から、誰でも気軽に手に入れられる価格帯へ。

扱いやすさを追求し生まれた形態安定シャツ、画一性から個性を表現するアイテムへ。

どんどん豊かになる日本で、変遷するシャツへのニーズに、時にしなやかに、時に苦悶しながら、応えてきました。

一方、世界は貧困や格差、環境問題に直面しています。

2015年9月の国連サミットで採択された、「SDGs（持続可能な開発目標）」

に各国の首脳が呼応し、日本も経済や地方創生などでその役割を果たそうとしています。

山喜は日本を代表するシャツメーカーとして、この潮流に何をもって応えるのか。

まずは、いま問題視されている、廃プラスチック問題。そこで「ワイシャツのプラスチック製付属品を2030年までに撤廃する」という目標を掲げプロジェクトチームを発足させました。

そしてこの夏、当社オリジナルブランド「シャツハウス」より、プラスチック材料の仕上げ付属品を一切使用しないワイシャツがデビューします。

この仕様により、ワイシャツ1枚あたり、ペットボトル約1本分のプラスチックごみが削減できます。

山喜はこの取り組みによって環境省の「脱プラスチック＝プラスチックスマート」運動にも参画してまいります。

ほんの小さな一歩かもしれませんが、我々のこの運動が、美しい地球を守ること、日本が国際社会で存在感を示すことに繋がると信じています。

利益の追求のみならず、社会のために何ができるか。

山喜はこれからも、社会に必要とされる企業を目指します。